

平成30年度提出用原稿
学力調査結果「観点別・領域別の分析」

【国・都・市調査】
清瀬市立清瀬第五中学校

教科	学年	観点別結果の分析	領域別結果の分析
国語	第1学年	「読む能力」以外の4観点についてはいずれも全国平均を上回る、もしくはほぼ同じという結果であった。「読む能力」については平均に届かず、読むことを苦手とする生徒が多い傾向にある。文章の表現や指示語など、読解に取り組む際の基礎的な部分について定着を図り、演習を繰り返す行なうなかで、文章を読むことに対する抵抗をなくしていく必要がある。	「読むこと」の領域における文学的な文章を読むことについて正答率が低く、説明的な文章についても要点の読み取りを十分に行うことができていない生徒が多い。文学的文章については表現に注意して読むことに重点を置き、文章に慣れ親しむことを目標として指導を行う。説明的文章を扱う際は、内容を簡潔にまとめるスキルを身に付けさせる。
	第2学年	「教科の内容」では、どの観点も東京都の平均と同等もしくは上回っている。特に「話す・聞く」の正答率が高い。昨年度はこの観点が低かったため、基礎的な知識・技能が定着していると考えられる。それに対し「書く」の正答率が都とほぼ同じ。主題に沿って、筋道を立てて書くスキルの向上を図る指導が必要である。「読み解く力に関する内容」は、どの力も都の平均を大きく上回っている。	どの領域も、平均値かそれを上回る結果である。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は個人差が大きいため、小テストや家庭学習などで反復練習を重ねることで全体的な底上げを図りたい。「書くこと」の領域が若干低い。授業での取り組みの機会を増やしながら、生徒が苦手とする部分や習熟度の低いスキルを見極めたい。
	第3学年	【A】観点別に結果を分析した結果、「話す・聞く能力」以外は東京都の平均、全校平均よりも上回っている。特に「書く能力」「読む能力」は都と比較して2%、全国と比較して3%高い。「話す・聞く能力」は、都の平均よりも4.2%下回っており、とくに話合いの中でメモをとったり、話の進め方について考える能力をつけていく必要がある。 【B】「国語への関心・意欲・態度」が、東京都平均・全国平均よりも上回っていることが特徴である。一方で、【A】では都や国の平均よりも高かった「読む能力」の観点の正答率が著しく低い。知識としては身につけているので、その知識を応用し、自らの考えを持つ力などを身に付けさせる。	「書くこと」「読むこと」の領域は平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」の領域においては、話合いをしていくうえで、論理的に意見を展開したり、話の方向を捉えていくといった対応力が課題となるため、重点を置き、指導していく。 「読むこと」の領域では、グラフからの読み取りや、文章の構成について自ら考えて行く問題の正答率が低い。わかりやすく伝えるための構成を再度指導していく。
数学	第1学年	【関心・意欲・態度】については、全国平均よりもかなり高い結果だった。他の3観点については概ね全国平均と同じであった。関心や意欲が高いことを活かし、他の観点も伸ばしていく。	図形および関数の領域では全国の平均を下回った。他の2領域については、ほぼ平均と同等であるが、問題によっては正答率が大幅に低いものもあった。特に「割合」や「場合の数」が顕著であった。
	第2学年	概ね真面目に授業に取り組んでいるが、学力調査の結果から、教科の内容の問題では、数量関係を読み取って文字式に表す、正方形の作図、空間図形の問題の正答率が低かった。さらに、読み解く力に関する内容の問題では、文章を読み取り方程式を作る、図を読み取る、資料の整理の問題の正答率が低かった。既習事項の振り返り、文章から条件を正確に読み取り、文字の式で表すことや式の意味を読み解く力、条件から作図する力・回転体・空間図形の面積、中央値・ヒストグラムからの考察が課題であるとわかった。	文字・図形を扱う分野で1年次の振り返りを行い2年生の内容を関連付けて考えることができるよう演習を多めに取り入れていくようにしていく。言語活動を積極的に取り入れて、文章と数式(文字式)の関連、資料の活用との関連を意識することでできるように授業を工夫するようにする。
	第3学年	【A】出題のあった知識・理解の観点は、平均値とほぼ変わらなかった。技能の観点は、若干平均値を超えていた。両観点とも更に高めていけるよう指導していく。 【B】技能、見方・考え方において、平均を下回る結果であった。	「資料の活用」は平均を大きく上回っていた。「数と式」と「関数」は平均を若干上回っていた。「図形」は平均値とほぼ同等。「数と式」では、数量の大小関係を不等式に表すことでの理解が不十分。「関数」では反比例、一次関数の理解が不十分なので、意識的に指導していく。 どの領域も平均を下回る結果だった。全体的に無回答率は低かったため、意欲が高いと考えられる。「数と式」の証明の問題の無回答率が高いので、生徒が苦手意識を持っていると考えられる。問題文を読み解く力が低いことがうかがえる。
英語	第2学年	教科の内容において、表現の能力が都の平均を上回っている。知識・理解の能力は、都の平均と同じであったが、理解の能力は都の平均よりも少し下回っている結果であった。英単語や文法事項などの基礎・基本を定着させる指導を継続して行っていく。	どの領域も上回る結果であった。今後も基礎・基本の定着を図り、生徒の実態に合わせながら理解力の向上に努めていく。
理科	第2学年	教科の内容において、どの観点も都の平均を上回っている。学習の定着は図れていることが伺えるが、技能の観点は他の観点と比較して上回っている数値が低い。また、興味・関心などは学級によって差がある。	読み解く力に関する内容において、どの領域も都の平均を上回っている。しかし、解決する力の数値が全体的にも低いを上回っている数値も低く、持っている知識を総合的に使って解決する能力を育てていく必要があることが考えられる。
	第3学年	自然事象についての関心・意欲・態度が東京都、全国を大きく上回っているが、知識・理解は下回っており、日ごろの成果に結びつけて、興味はあるが、知識が定着していない。家庭学習などでの定着に課題がある。さらに、説明することに重点を置いてきたことにより、平均を上回っているが、選択式では下回っており、言葉の理解や細かい表現の違いなどが、課題である。	地学的領域が東京都、全国の平均を上回っており、授業形態でDVDの活用や観察を入れた効果が出ているが、物理的領域、特に計算が必要な分野では、平均を下回っており、ドリル式での計算力の定着や、他教科である。数学科との連携も今後視野に入れる必要がある。
社会	第2学年	「関心・意欲・態度」「知識・理解」に関しては、東京都の平均を大きく上回っていた。しかし、「思考・判断・表現」「技能」に関してはクラスの差が大きく、不得意と感じている生徒が多いクラスが見られる。	読み解く力に関する内容で、複数の資料を読み取り答えを導き出すような問題での正答率が低い傾向がある。問題の内容を精査し、何を読み取るべきかを見極める練習をさせていく必要がある。